別府市子どもの読書活動推進計画（第３次）の概要

本計画は、これまでの取組を継承しつつ、今の社会背景に即した計画となるようアップデートする。市内すべての子どもたちにとって、誰かに強制される読み聞かせや読書ではなく、自ら本を取り、本を読み聞かせてもらいたい、本を読みたいという気持ちが叶えられる別府ならではの環境整備と大人の意識改革にも取り組む。また、幼少期に読書の楽しさ、面白さを伝え、自発的に生涯を本と共にできる読書習慣の形成を図るように取り組む。

【計画の期間】　令和４年度ー令和８年度（おおむね５年）　【計画の対象】（1）本計画の子どもとは、おおむね18歳までの子ども　（2）本計画は、子どもの読書活動の推進に関わる保護者をはじめ、市民ボランティア、地域活動関係者、学校関係者、行政関係者等子どもの読書活動に関わる大人を対象

本市の子どもの読書活動の状況

数値の推移から見た状況

指標１〈読書が好きな子どもの割合〉

区分	平成26年度（第2次計画策定時）	令和2年度（本調査）	令和3年度（目標）	達成率
小学生 低学年	92.2%	**94.5%**	95%	99.5%
小学生 高学年	85.5%	**87.7%**	90%	96.7%
中学生	85.1%	**77.6%**	90%	86.2%
高校生	64.5%	**72.8%**	75%	97.1%
特別支援学校生	—	**84.8%**	—	—

小学生と高校生は、読書が好きな子どもの割合が増加している、中学生は減少している。

指標2〈1カ月に1冊以上本を読む子どもの割合〉

区分	平成26年度（第2次計画策定時）	令和2年度（本調査）	令和3年度（目標）	達成率
小学生 低学年	99.1%	**98.3%**	100%	98.3%
小学生 高学年	98.1%	**93.5%**	100%	93.5%
中学生	92.4%	**82.4%**	95%	86.7%
高校生	48.6%	**69.9%**	70%	99.9%
特別支援学校生	—	**79.2%**	—	—

小学生、中学生とともに減少。中学生の減少は顕著。高校生は、目標値をほぼ達成している。

子どもの不読理由としては、読みたい本がない、インターネットやゲーム、テレビやDVDを観るため、習い事や部活、勉強は塾で時間がないことが主に上げられている。中高生に関しては、本を読むことが嫌いが高い数値を示している。

現状と課題

○年齢が上がるにつれて、読書が好きな子どもの割合が減少する傾向、不読率の割合が高まる傾向は、依然として変わらない。
第2次計画では、指標1と2を達成するため、以下に示す方針を主に掲げ、現状と課題を検証した。

《方針》 子どもが読書を親しむ「きっかけ」の提供

【幼稚園・保育所（園）・認定こども園】

子どもの読書活動推進に関わる行事等の実施（コロナ禍以前）	している	77%
読み聞かせボランティアの活用（コロナ禍以前）	している	23%
読み聞かせの意義や大切さを情報発信	している	81%
コロナ禍においても子ども読書活動の推進ができたか	できた	73%
施設等内に常時図書資料は設備されているか	されている	92%
図書資料は十分に足りているか	足りている	42%

現状
・読み聞かせボランティアの活用ができていない
・図書資料が十分でないことが明らか

課題
○読み聞かせボランティアの活用
○図書資料の充実

【地域】

子どもの読書活動推進に関わる行事等の実施（コロナ禍以前）	している	50%
地域の読み聞かせボランティアの活用（コロナ禍以前）	している	22%
子どもや保護者に向けた子ども読書の啓発や広報活動	できている	28%
コロナ禍においても子ども読書活動の推進ができたか	できた	67%

現状
・数値を見る限り、十分な読書活動の推進ができたとは言えない

課題
○読み聞かせボランティアの活用
○子ども読書の啓発や広報活動の充実

【学校】

中学校の取組 平成２６年度	中学校の取組 令和２年度	調査項目	小学校の取組 平成２６年度	小学校の取組 令和２年度
8／ 8校	0／ 8校	一斉読書や朝読書、読み聞かせの実施	14／14校	14／14校
8／ 8校	8／ 8校	読書集会等の読書活動の推進にかかる行事の実施	14／14校	14／14校
8／ 8校	8／ 8校	学校図書館の司書配置	7／14校	14／14校
–	6／ 8校	学校図書館の図書標準の達成	–	10／14校
–	8／ 8校	ボランティアの活用	–	10／14校

現状
・読書集会などの行事の実施は、100%で実施
・一斉読書や朝読書の取組は減少
・読み聞かせのボランティアの活用をしていないところがある

課題
○コロナ禍の影響により、読書活動推進が停滞
○読み聞かせボランティアの活用
○図書館の図書標準の達成

【市立図書館】

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和２年度
来館者数		151,566	147,045	143,133	128,399	70,370
新規登録者数	本館	1,519	1,354	1,321	1,157	922
	移動	67	85	73	364	230
	計	1,586	1,439	1,394	1,521	1,152
貸出者数	本館	68,950	65,774	63,844	58,297	49,168
	移動	3,241	3,101	2,699	4,086	4,764
	計	72,191	68,875	66,543	62,383	53,932
貸出冊数	本館	269,235	258,164	251,278	235,176	201,772
	移動	13,933	13,004	9,124	15,566	19,627
	計	283,168	271,168	260,402	250,742	221,399

現状
・利用者、貸出冊数の減少が著しい
・年齢が上がるにつれて、市立図書館の利用が減少
・高校生の80%、特支学生の70%近くが図書館を利用していない
・全体的に図書館のサービスについてあまり知らない傾向が強い

課題
○図書館サービスをもっと知ってもらうための広報
○魅力ある図書館になるための工夫
○すべての人が自由に読書できるような環境整備

計画（第2次）時の主な動向

○別府市内各小中学校すべてに１名ずつ司書が配置
○平成３０年度から令和２年度までの間には、県との共催による子ども司書養成講座の実施では３５名の認定子ども司書が誕生
○子どもの読書活動推進ボランティア研修会を毎年４回開催
○令和元年には地域に「子どもの読書活動応援ボランティアネットワークの会」が発足（令和元年）

第3次計画の基本的な考え方

本市の子ども読書活動の状況から見えてきた課題を解決していくために、本計画において、以下の基本理念〈めざす子ども像〉と３つの基本方針を掲げて計画を進めます。

基本理念〈めざす子ども像〉

「読書が大好き」別府っ子

基本方針１

「別府ならではの読書環境の整備」を実現

年齢、性別、人種、住居地、障害の有無等に関わらず、多様なすべての子どもたちが読書を楽しむことのできる環境づくりを進めます。

基本方針２

幼少期からの読書習慣の形成

子どもたちが自発的に本を読みたくなる・読んでもらいたくなる環境を整え、幼少期からの読書習慣の形成を進めます。

基本方針３

大人の意識改革

子どもたちのロールモデルとなる大人が読書の楽しさ、面白さを再認識し、また改めて実感できる「大人の読書活動推進」を進めます。

《推進施策の効果的な実施に向けて》

以下のような推進体制の整備を行う。

1　物流ネットワークシステムの構築
2　子ども読書に関わるボランティア団体、個人、民間企業、学校や図書館職員等ネットワークの構築・拡大
3　子どもの読書活動推進協議会の設置
4　子どもの読書活動推進大会の開催